



新焼溶岩 (島原市北千本木町)

今月は江戸時代に噴火した新焼溶岩を紹介します。

「新焼溶岩」は、寛政4年(1792年)、後に琵琶の首と呼ばれる場所から流れ出した溶岩です。この溶岩流の先端は島原市北千本木町で観察することが出来ます。

噴火の前兆と溶岩の流出

寛政3年(1791年)年11月、噴火の前兆地震が雲仙市小浜町で頻発し、山領地区で特に大きな被害が出ました。寛政4年(1792年)年2月11日、前回の噴火から129年振りに噴火が開始。2月27日からは、琵琶の首と呼ばれる場所から溶岩が流出し、穴迫谷をゆっくりと流れ下りました。

この溶岩流を一目見ようと多くの見物客が詰めかけ、当時の藩が見物禁止

知らない人はいない!? ジーオくんのプロフィール

- 出身：島原半島 性別：元気な男の子
- 誕生日：8月22日 (世界ジオパーク認定日と同じ)
- 性格：好奇心旺盛だけど、ちょっとおっちょこちょいな所も
- 趣味：お友達と一緒に「ジオさらく」と島原半島の温泉めぐり
- チャームポイント：帽子からちょっと出ている前髪 (島原半島の「し」に似ている)
- 好きな食べ物：そうめん、かんだらし、じゃがいもなど、大地の恵みの産物なら何でも大好き
- 好きな教科：理科 (自然や地形を観察するのが得意)
- 嫌いな教科：体育 (走ったりするのはちょっと苦手)



見かけたら、一緒に写真撮ってね♪

今まで出したとされていいます。

溶岩流の流出が止まりかけた頃から、雲仙岳東側の眉山付近で地震が起り始めました。また、同年4月21日から翌日にかけて大きな地震が頻発し、島原城下にも被害が出ました。この地震で多くの人は一度避難しますが地震活動が治まった4月下旬には、再び城下に戻ってきました。

次回は、「島原大変：眉山山体崩壊」、「白土湖と音無川」をお届けします。

北村西望賞教育美術展

「第34回北村西望賞教育美術展」が11月3日から同月7日まで島原文化会館で開催されました。

この美術展は、本市の名誉市民・故北村西望先生の功績をたたえとともに、子どもたちの美術の表現力をさらに高め、創作意欲を喚起しようと開催されているもので、この美術展の優秀作品が次のように決まりました。



島原市名誉市民 故 北村西望先生

長崎市に建立されている「平和祈念像」はあまりにも有名な作品で、島原市にも数多くの作品を寄贈いただき、その作品は島原城西望記念館などで見ることが出来ます。また、多額の浄財を寄付され、「北村西望賞基金」を設け、小中学生の教育美術の振興に役立てられています。

平面の部



「にわとりとぼく」
第一小学校2年 大場紗久真さん



「屋上から見える風景」
第一小学校6年 小森真紀子さん



「キュービック」
第三中学校3年 福島 淳さん

立体の部



「大物だぁー!!」
第二小学校3年 森本啓斗さん



「ヤーッ!!」
第四小学校6年 松田美結女さん



「軍鶏」
第二中学校3年 平野翔太さん